

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先														備考
									埼玉大	埼玉県立大	浦和大学	共栄大	慶應義塾大	芝浦工業大	聖学院大	日本大	人間総合科学大	放送大	目白大	国際学院埼玉短期大	その他	大学名	
1	都市戦略本部	都市経営戦略部	学生政策提案フォーラムinさいたま	市と大学コンソーシアムさいたまの共催事業として、大学コンソーシアムさいたま加盟大学の学生が、市長に政策を提案する。	平成23年度	進学、就職、結婚等で転出が多い若い世代に、さいたま市を住みやすい、住み続けたいと思っていたような定住促進につながる取組を推進するため、「若い世代の定住促進」をテーマとして、5大学9グループの学生がプレゼンテーション形式で発表を行った	学生の、さいたま市に対する愛着と関心が深まるとともに、学生からの提案を各事業実施の際の参考とした。また、平成27年度提案があった施策の一部について、学生と協働で事業化につなげた。	平成30年度以降も継続して実施していく予定。学生からの提案を計画の策定や事業を実施する際の参考として活用し、施策への反映を引き続き検討する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
2	都市戦略本部	都市経営戦略部	大学による地域の課題解決・活性化支援事業	大学コンソーシアムさいたま加盟大学の知や活力による地域の活性化や課題解決につながる事業を支援することにより、大学の実践的な教育・研究機会の確保、人材育成等を図るとともに、地域の活性化等を図ることを目的とする。	平成27年度	商工会議所等と連携し、ナトカリ塩等を使用した減塩効果の高い商品開発を実施し、商品化に向けて検討を行う事業等に補助を行った。	減塩効果が高いナトカリ塩を使用した新商品・レシピの開発及び減塩商品を扱う企業の普及拡大に努めることで、市民の健康促進が期待される。	平成30年度以降も引き続き、大学の知や活力による地域の活性化や課題解決につながる事業を支援していく。	○														
3	都市戦略本部	都市経営戦略部	健幸ネットワーク	市民の誰もが「健幸」で元気に暮らしていくため、「スマートウェルネスさいたま」の機運を様々な企業・団体等に広げ、さいたま市全体で、健康づくりについて共に考え、学び、実践する機会を増やしていくため、「さいたま健康ネットワーク」を立ち上げるもの	平成27年度	ネットワークの構成員として参加していただく。	大学の持つ知見等を、ネットワークで共有し、よりスマートウェルネスの機運を高めることが期待される。	平成30年度以降も継続して実施していく予定。															

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施にしたことによる効果	今後の方向性	連携先														備考
									埼玉大学	埼玉県立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学	聖学院大学	日本大学	人間総合科学大学	放送大学	目白大学	国際学院埼玉短期大学	その他	大学名	
4	都市戦略本部	都市経営戦略部	おもてなし団扇の配布	老境2020大会に向けてさいたま市が提供できる「さいたま市おもてなしスタイル」をテーマに開催された「第5回学生政策提案フォーラムinさいたま」において、最優秀賞を受賞した埼玉大学齋藤ゼミの政策提案「うちわでOMOTENASU」を、さいたま商工会議所が取り上げ、埼玉大学齋藤ゼミと連携し、試供品の作成等を経て、「おもてなし団扇」を作成	平成28年度	第8回世界盆栽大会inさいたまにおいて、おもてなし団扇を外国人来場者を主な対象に、埼玉大学の齋藤ゼミの学生が、さいたま観光大使と連携して配布	学生のアイデアを生かしたおもてなし団扇を、実際に世界盆栽大会	東京2020大会に向けて、改善等を図っていく予定	○														
5	都市戦略本部	都市経営戦略部	環境システム応用演習	芝浦工業大学の授業プログラムの中で、9つの対象地域の課題に対する解決策を学生が考え発表するため、市が該当地域に関する現状・課題や施策について情報提供、資料提供等を行うとともに、報告会等でアドバイス等を行う	10月	与野本町駅周辺、東大宮駅周辺、七里駅周辺、大宮駅東口周辺の4つの地域について、それぞれ所管課がヒアリング等へ協力	学生の自由な発想のまちづくりの提案がそれぞれの地域のまちづくりに向けた今後の検討の参考となる	学生がまとめた提案について、まちづくりの参考にしていく予定															4つの地域について、大宮駅東口まちづくり事務所、区画整理支援課、まちづくり総務課にて協力
6	都市戦略本部	行財政改革推進部	複合化検討ワークショップ	公共施設の複合化について、市民参加型ワークショップにおいて検討し、合意を形成するもの。	平成24年度	小学校複合化の実施設計について、学生が作成した模型を活用して市民に説明することにより、円滑な質疑応答が可能となり、実施設計の説明を効果的に行うことができた。	学生が参加することによる議論の活性化 学生が作成する模型による議論の効率化	市民参加型ワークショップに学生が参加する手法を活用し、他事例への展開を図る。															

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携 開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内 容)	大学と連携して事業 を実施したことに よる効果	今後の方向性	連携先																備考						
									埼玉大 学	埼玉県 立大学	浦和 大 学	共栄大 学	慶應義 塾大学	芝浦工 業大学	聖学院 大 学	日本大 学	人間総 合科学 大 学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大 学	その他	大学名									
7	都市戦略本 部	オリンピッ ク・パラリ ンピック部	おもてなしアクシ ョンプラン推進事業	東京2020大会に向 けて官民で実施する 「おもてなしアク ションプラン」の具 現化に向けた検討を 行う「アクションサ ポート会議」の開催 等、民間企業・団体 等が大会に関わる 環境を準備し、気運 醸成につなげる。	H29. 7	大学コンソーシアム さいたまの幹事大学 に委員として参画い ただき、民間企業等 が実施するおもてな しアクションに対す る意見交換を行った。	おもてなしアクショ ンプランに対する意 見交換に参画いただ き、同プランの推進 につなげることがで きた。	来年度も引き続き、 大学コンソーシアム さいたまの幹事大学 の方に参画いただ く。																					○		
8	都市戦略本 部	オリンピッ ク・パラリ ンピック部	おもてなしアクシ ョンプラン推進事業	東京2020大会に向 けて官民で実施する 「おもてなしアク ションプラン」の具 現化に向けた検討を 行う「アクションサ ポート会議」の開催 等、民間企業・団体 等が大会に関わる 環境を準備し、気運 醸成につなげる。	H29. 7	芝浦工業大学を中心 とした産学連携組織 (さいたま・人×ま ち×暮らし・レジリ エンス研究会)によ る、東京2020大 会時のクールスポッ トの設置検討がす められた。	東京2020大会の 主要な課題である熱 中症対策に関し、官 民連携による対応の 準備が進展した。	来年度もアクション サポート会議を通じ て、同研究会による クールスポット設置 計画を支援し、大会 時の準備を進める。																					○		
9	都市戦略本 部	オリンピッ ク・パラリ ンピック部	東京2020ボラン ティア推進事業	市内の既存の関係団 体で構成するボラン ティア連絡協議会を 通じて、本市の所掌 するボランティアの 準備を進めるととも に、市民の大会時の ボランティア参画に 対する関心や意欲の 向上を図る。	H29. 10	大学コンソーシアム さいたまの幹事大学 に委員として参画い ただき、東京202 0大会のボランティ アに関する情報をの 各大学に周知して頂 いた。	近隣大学への東京2 020大会時のボラ ンティア情報の周知 につながった。	来年度も引き続き、 大学コンソーシアム さいたまの幹事大学 の方に参画いただ く。																						○	
10	市民局 市民生活部	男女共同参 画課	さいたまイクボス共 同宣言	イクボスの精神を地 域社会全体に普及し ていくことを目的 に、企業及び大学と イクボス共同宣言を 実施し、市内外へP Rする。	平成29年 11月	平成29年11月から 12月に4回の会議を 経て、平成30年1 月9日に武蔵浦和コ ミュニティセンター にて「さいたまイク ボス共同宣言」を実 施した。	「さいたまイクボス 共同宣言」大学が参 加したことで、産官 学による連携強化が 図れた。また、宣言 とその後のシンポジ ウムに大学生が参加 したことで、各事業 所の取組などを周知 できた。	イクボス共同宣言に ついては平成29年度 限りになるが、女性 活躍推進や男女共同 参画施策等に関して 引き続き連携を図る ことを検討中であ る。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									大学コンソー シアムさい まとの連携を 実施		

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績（大学との連携内容）	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先														備考			
									埼玉大 学	埼玉県 立大 学	浦和 大 学	共栄 大 学	慶應義 塾大 学	芝浦工 業大 学	聖学院 大 学	日本大 学	人間総 合科学 大 学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大 学	その他	大学名				
11	市民局 市民生活部	男女共同参 画課	デートDV防止啓発 事業	デートDV防止出前 講座	平成23年 度	平成29年4月3日に 出前講座を実施し た。 （参加者数1,105 名）	学生のデートDV防 止への理解が深まっ た。	継続して実施する。	○																	
12	スポーツ文 化局	スポーツ振 興課	高齢者健康スポーツ 教室	生涯スポーツの振興 を図るため、大学や 民間企業の資源・財 産を活用した、産学 官連携による高齢者 向けの健康スポーツ 教室の開催。	平成26年 度	大学施設を利用した 「高齢者健康スポー ツ教室」（ストレッ チング、筋力トレ ーニング、ウォーキン グ、ボールゲーム 等）の開催。 講師：大学准教授 期間：5月～11月 毎週月曜日（9：00 ～10:30） 回数：全25回	企業、大学、行政の それぞれが提供可能 な資源・財産等を融 合させることによ り、効率的・効果的 なスポーツ振興を図 ることができた。	事業の継続、発展を 図る。																		
13	スポーツ文 化局	スポーツイ ベント課	さいたま国際マラソ ン開催事業	さいたま国際マラソ ンにおける沿道応援	平成27年 度	学生による沿道応援 を実施	ランナーの応援をと おして大会の盛り上 がりにつながったほ か、大学のPRの場 となった。	引き続き協力を依頼 する。																		埼玉県が担当
14	スポーツ文 化局	スポーツイ ベント課	さいたま国際マラソ ン開催事業	さいたま国際マラソ ンにおけるボラン ティア協力	平成27年 度	大会をサポートする ボランティアに学生 が参加	学生の参加によりラ ンナーへのおもてな し、大会の盛り上が りにつながったほ か、学生のスポーツ ボランティア参加の 契機、国際大会の経 験の場となった。	引き続き協力を依頼 する。				○	○					○				○				文教大 学、帝 京平 成大 学、 日本 医 療科 学大 学、 女子 栄 養大 学

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先														備考																																
									埼玉大 学	埼玉大 学	浦和 大 学	共栄大 学	慶應義 塾大 学	芝浦工 業大 学	聖学院 大 学	日本大 学	人間総 合科学 大 学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大 学	その他	大学名																																	
15	スポーツ文化局	スポーツイベント課	国際自転車競技大会開催事業	さいくり広報部でのさいたまクリテリウムPR	平成29年度	・SNSでの情報発信 ・大会100日前PRイベントでの広報 ・さいくり広報部市内サイクリング企画での広報	大会PRイベント及び大会当日の体験を学生自らSNSで情報発信することで、10代から20代に大会のPRをすることができた。また、大会PRイベントに参加することで、学生たちのスポーツプロモーションを学ぶ機会となった。	未定	○			○	○																																										
16	スポーツ文化局	大宮盆栽美術館	盆栽イベント企画事業	大宮盆栽及び大宮盆栽美術館のPRのため、盆栽に関する企画を共同で立案、実施する。	平成28年度	「大学生に向けた盆栽のPR」又は「盆栽を活かしたまちづくり」をテーマに、イベントや取組を企画・提案。	大学生の視点での柔軟な発想による取り組みを提案してもらい、今後の事業展開の参考とした。	引き続き、盆栽を活用したイベントや施策について提案してもらう。																				○																											
17	保健福祉局	健康増進課	食育を実践しようプロジェクト	第2次さいたま市食育推進計画に基づき、食育活動を企画・実践する人材を育成し、食育の普及啓発を図る。	平成25年度	・大学新生を対象とした食育活動の実践 ・参加学生の募集(チラシの配布・設置) ・参加申込み受付 ・会場(大学の教室)の確保	・食育活動の実践の場を提供していただけた。 ・参加申込み受付の事務処理を低減できた。 ・会場を大学の教室としたことで、学生が参加しやすくなった。	これまでの事業展開を評価し、より効果的な食育活動が展開できるように、事業内容を見直す。																					○																										
18	保健福祉局	疾病予防対策課	エイズ予防対策事業	若年層を対象としたエイズ予防普及啓発	平成20年度	学園祭・世界エイズデー・成人式等で学生と協働し、エイズ予防普及啓発を実施	若年層のHIV検査受検者の増加・エイズ予防知識の普及	継続実施	○			○																	○	○	○	○		○				○						○	○		○								浦和大学・人間総合科学大学・目白大学については学園祭のみの協力。

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施にしたことによる効果	今後の方向性	連携先													備考					
									埼玉大 学	埼玉県 立大 学	浦和 大 学	共栄 大 学	慶應 義 塾 大 学	芝浦工 業 大 学	聖学院 大 学	日本 大 学	人間 総 合 科 学 大 学	放送 大 学	目白 大 学	国際 学 院 埼 玉 短 期 大 学	その他		大学名				
19	子ども未来局	保育課	保育士スキルアップ事業	各園で取組んできた園内研修内容を発表する場において、大学教授等に助言をいただき、保育士のスキルアップを図る。	平成19年度	4件(園内研修発表の場となる、グループ別保育実践報告会において、助言をいただいた)	助言者より方向性を示唆していただき、日常における保育を振り返るとともに、職員全体で共通理解を図りながら、保育の質の向上に取り組むことができる。	市内保育施設職員(公立、私立認可保育所、認定こども園、小規模保育事業所、ナーサリー、家庭保育室職員等)が参加する研修であり、今後も保育施設職員として必要な知識・技術を習得できる場として、継続していきたい。																			
20	環境局	環境創造政策課	さいたま市環境フォーラム	市民、事業者、学校、行政などが連携し、日頃の環境保全活動について展示や発表を行い、お互いの情報交換の場、多くの方の環境教育・学習の場を創出し、環境保全活動を促進する。	平成16年度	さいたま新都心駅東西自由通路で開催した環境フォーラムにおいて、芝浦工業大学の学生が活動内容に関するパネルや様々な計測器の展示を行った。	大学の他、事業者、学校、行政など24団体が参加し、それぞれの立場で行っている様々な環境保全活動について展示・発表できたことで、来場者に市内で行われている活動を幅広く紹介することができた。	次回以降の開催においても連携を継続していく予定である。																			
21	経済局	労働政策課	学内合同企業説明会	埼玉大学において、在学生向けに、市内企業(さいたま市リーディングエッジ企業)による合同企業説明会を、共催により実施。	平成24年度	平成30年3月1日から3月9日に実施予定。市は企業募集に係る周知を連携し実施。	求人意向のある市内企業と学生とのマッチングを図り、市内企業の技術力確保と、新規学卒者の市内就労を促進する。	今後も年度1回程度、継続実施予定。																			
22	経済局	産業展開推進課	さいたま市研究開発人材高度化タスクフォース事業	企業と大学等研究機関、さいたま市産業創造財団の3者共同研究実施により、企業・大学間の人材高度化を実現する。	平成21年度(事業開始時期)	(株)サイデン化学×埼玉大学、(有)三和テック×埼玉大学、(株)大和×埼玉工業大学による共同研究を実施(ほか、垣塚精機(株)×長岡技術科学大学)	企業の社内人材育成、企業研究機関間のパイプ構築、学生のビジネスリテラシー向上、キャリア開発に貢献した。	引き続き産学連携推進事業として実施する。																			埼玉工業大学、長岡技術科学大学



市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施にしたことによる効果	今後の方向性	連携先													備考			
									埼玉大学	埼玉県立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学	聖学院大学	日本大学	人間総合科学大学	放送大学	目白大学	国際学院埼玉短期大学	その他		大学名		
27	経済局	産業展開推進課	さいたま医療ものづくりフォーラム	医療ものづくり都市構想のPRと産学・官・医による医工連携コミュニティ形成を図るため、フォーラムを開催する。	平成24年度	地域理工系大学へ研究成果ポスターの掲示を依頼。また、大学病院の教授・医師へニーズ発表とポスター掲示を依頼。	臨床現場のニーズとものづくり企業とのマッチングにより、さいたま発医療機器の開発促進につながる。	今後も継続して年1回フォーラムを開催する。	○																東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学、自治医科大学、川崎医科大学、鹿児島大学、長崎大学
28	経済局	観光国際課 さいたま観光国際協会国際交流センター	国際交流	①はじめましての会(来日間もない外国人への生活等のオリエンテーション) ②ホームビジット(外国人に向けた宿泊を伴わないホームステイ体験会)	①平成15年度 ②平成17年度	①同大学の留学生による参加 4月、10月 ②同大学の留学生による参加 6月、11月	①参加者が日本の文化や生活習慣について理解を深めることができた。 ②事業への参加を通じて、市民と留学生との交流の機会が生まれるとともに、相互理解を深めることができた。	大学に向けた既存事業への参加者を継続して募集し、事業の実施効果の向上を図る。	○					○	○										
29	経済局	農業政策課	農学商連携事業	学生による農作業体験(紅赤の栽培)および紅赤を使用したメニューの製造、販売	平成22年度	(1)学生による農作業体験 ・さいたま市農業祭において、紅赤を使用したスイーツの製造、販売 (2)学生による紅赤を使用したメニュー開発及び直売所での試食販売	本市発祥のさつまいも(紅赤)のPRおよび農業の価値と魅力への理解	(2)については、学生個人の研究への協力を含むため、継続は不明														○	○	女子栄養大学	(1)国際学院埼玉短期大学 (2)女子栄養大学
30	都市局	都市総務課	復興イメージトレーニング	大規模災害後の都市復興を考えることで、災害に対する対応能力向上やノウハウの蓄積を図るトレーニングであり、防災都市づくり計画において「復興」の施策として位置付けている。 事業実施に際しては、市民・事業者・行政の3者が協働で実施している。	平成25年度	トレーニング開発者の芝浦工業大学の村仁先生にトレーニング全体の監修や講師を依頼するとともに、トレーニングへの学生の参加を依頼した。	講師による専門的な視点での講評や、専門的かつ若者の立場としての学生の意見があることで、より広い視野で復興を考えることができた。	引き続き、震災発生時を想定し、市民・事業者・行政の三者がそれぞれの役割分担を意識しながら協働で考えるトレーニングを実施し、継続的に災害対応能力の向上や復興についてのノウハウの集積を図っていく。																	



市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績（大学との連携内容）	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先													備考			
									埼玉大学	埼玉県立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学	聖学院大学	日本大学	人間総合科学大学	放送大学	目白大学	国際学院 埼玉短期大学	その他		大学名		
31	都市局	都市計画課	埼玉大学の講義「建設史・建設行政」における講演	市の職員が大学の学生等に対して講義を行う。	H28年度（協定締結年度）	埼玉大学工学部建設工学科の学生を対象に、都市局長が「さいたま市のまちづくりの取り組み」について講演を行った。	講義を受けた学生に対し、さいたま市の成り立ちや現在力を入れている取組についての理解が深まった。	大学側からの依頼があれば対応したい。	○																
32	都市局	都市計画部 交通政策課	さいたまカーフリーデー2017	平成19年度から、民・産・学・官の協働による実行委員会を組織し「自動車に過度に依存しない交通体系の実現」に向け、「車の使い方」を市民と行政が一緒に考えるための周知啓発と、快適で賑わいのある歩行空間を創出するため、PRイベントやノーマイカーデーを実施する。	平成19年度	・車両通行止めにするなどで周辺道路の交通量に与える影響について調査した。 ・PRイベント時に交通まちづくり取組紹介ブースの出店で参画。	・イベント開催目的の一つである、快適で賑わいのある歩行空間を創出するための基礎データを収集した。 ・イベント来訪者の意識醸成に寄与した。	引き続き大学と連携しPRイベントを実施する予定。	○																
33	都市局	まちづくり 総務課	課題解決型長期インターンシッププログラム	埼玉大学の授業プログラムの中で、埼京線沿線（与野本町駅周辺、南与野駅周辺）のまちの活性化を図るため、学生が現状の問題点を把握し、解決策を提案するに当たって、市が情報提供などの協力をするもの	10月	与野本町駅周辺まちづくりマスタープランの概要を講義	学生のまちづくり活動への参加や大学との継続的な連携が期待される。	今後機会に応じて大学との連携を図っていく予定	○																



市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携 開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内 容)	大学と連携して事業 を実施したことに よる効果	今後の方向性	連携先													備考											
									埼玉大 学	埼玉県 立大学	浦和大 学	共栄大 学	慶應義 塾大学	芝浦工 業大学	聖学院 大学	日本大 学	人間総 合科学 大学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大学	その他		大学名										
37	都市局	大宮駅東口 まちづくり 事務所	危機事象に負けない スマート&レジリエ ントなまちづくり	さいたま・人×まち ×暮らし・レジリエ ンス研究会(芝浦工 業大学、コカ・コー ライストジャパン 他4社)が都市の高 温化や地震災害に対 応した、安心できる まちの形成の一環と して「クールスポッ ト」(小庭・緑×自 販機×デジタルサイ ネージ)を設置す る。	平成29年 度	アーバンデザインセ ンター大宮が実施し た「おおみやスト リートテラス」に て、研究会がまちな かの回遊性や安全性 を高める「クールス ポット」の提案とし て、デモ・ミニレク を実施しました。	クールスポットの必 要性やイメージにつ いて学習することが できたとともに、熱 中症や災害情報の共 有について意見交換 を行い、暑さ対策の まちづくりの機運を 高めることができ た。	今後引き続き、 クールスポットの実 施に向けて、研究会 とUDCO・市で積極 的に連携し、クール スポットの実施に向 けて協力していきま す。																									
38	都市局	大宮駅西口 まちづくり 事務所	H29大宮駅周辺地域 戦略ビジョン推進方 策(西口おもてなし歩 行エリア)検討業務	大宮駅周辺地域戦略 ビジョンにおける 「おもてなし歩行エ リア」に位置付けら れている大宮停車場 大成線の段差解消を 進めるため、「歩行 者シンボル軸の設計 の実施」および「歩 行者シンボル軸の工 事着工に向けた協 議・調整」を行うこ とを目的とする。	平成29年 度	さいたまカーフリー デー2017におい て、官民学連携のも とブースを出展し、 大宮停車場大成線の 今後について、ブー スを訪れた方を対象 に、アンケート調査 を実施したものの。	官民学合同のアン ケート調査を行った ことで、官民学それ ぞれの調査したい内 容について何うこと が出来たため、多様 な観点から意見をい ただくことができ た。	おもてなし歩行エリ アの活用について、 継続して実施した い。																									
39	教育委員会 事務局	指導1課	大学生による学習支 援ボランティア事業	市立小・中・特別支 援学校等に大学生に よる学習支援ボラン ティア(アシスタント ティーチャー)を配 置し、児童生徒に きめ細かい個別指 導、支援等を行う。	平成16年11月29日	アシスタントティー チャー学生募集の説 明会の実施、ポス ター、リーフレット の配付	児童生徒へのきめ細 かな個別指導や支援 の充実が図られた。	児童生徒へのきめ細 かな個別指導や、大 学生の教員となるた めの意欲、資質の向 上のために、アシス タントティーチャー の活動について広報 活動を行い、学生を 確保する。																								文教大学 東京学芸 大学	
40	教育委員会 事務局	指導1課特 別支援教育 室	さいたま市教育委員 会免許状認定講習 (特別支援教育)	本市の教職員の特別 支援学校教諭免許状 の保有率を向上させ るとともに特別支援 教育に関する専門性 をさらに向上させる ことで、特別な教育 的支援を必要とする 児童生徒に対する指 導の充実を図る。	平成29年 度	免許状認定講習(特 別支援教育)6講座 12日間の大学教員 による講義	本市の教職員が規定 の講座を受講するこ とで特別支援学校教 諭2種免許状を取得 するための単位の修 得者を増やした。 特別支援教育に関す る専門性の向上によ り、指導方法の改善 と特別な配慮を必要 とする児童生徒への 支援の充実を図つ た。	平成29年度以降も 講習を実施予定。各 年度80名の特別支 援学校教諭免許状の 取得を目指し、児童 生徒一人ひとりに寄 り添った教育を推進 する。																									

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績（大学との連携内容）	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先													備考				
									埼玉大学	埼玉県立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学	聖学院大学	日本大学	人間総合科学大学	放送大学	目白大学	国際学院埼玉短期大学	その他		大学名			
41	教育委員会事務局	総合教育相談室	適応指導教室運営事業	市内6か所の市立教育相談室に併設されている適応指導教室で学生ボランティアの受け入れを行う。また、教育相談臨床実習生の受け入れを行う。	平成22年度	市内6か所の市立教育相談室に併設されている適応指導教室で、児童生徒に対する指導の充実を図るため、学生ボランティアを受け入れ、通室生への学習支援や活動の補助を行った。また、教員や心理職を目指す大学院生の教育相談臨床実習生を受け入れた。	学習支援や、体験活動、コミュニケーション活動を通して学生ボランティアが通室生にかかわること、安定した通室や登校への意欲づけにもつながった。また、教育相談臨床実習生を受け入れ、教員や心理職を目指す大学院生の臨床経験を深めることができた。	来年度も学生ボランティア及び、教育相談臨床実習生の受け入れを引き続き行っていく。	○														東京家政大学、二松学舎大学			
42	教育委員会事務局	高校教育課	埼玉大学高大連携講座	市立4高等学校と埼玉大学間で協定を結び、埼玉大学の講座受講希望の生徒が「高大連携講座」を受講する。	平成21年度	参加を促す広報を行ったが、参加者がいなかった。	生徒の興味や意欲に応じた、高いレベルの教育研究に触れることができる各種講座は、受講した生徒の思考や能力を大きく伸ばさせると考える。	継続的に実施し、生徒に参加を促していく。	○																	
43	教育委員会事務局	高校教育課	土曜授業推進事業	世界の最先端技術や研究に触れさせ、幅広い進路選択、高度な科学技術分野で活躍する人材育成のため、大宮北高等学校の「理数科」及び普通科の希望する生徒を対象にした、埼玉大学の教授による「理数科アドバイザー講義」を実施する。	平成26年度	年間14回の土曜授業を実施し、埼玉大学の教授による「アドバイザー講義」を3回実施した。生徒は、数学・物理・化学・生物研究したい各分野に分かれ、それぞれの分野の専門家であり、研究者である埼玉大学大学院理工学研究科の先生方からアドバイスをいただいた。	生徒の更なる最先端科学への関心、意欲の向上及び英語のプレゼンテーション能力の向上が図られた。また、学んだ内容を地域の小中学生へのアウトリーチ活動を実践したことで、小中高大をつなぐ理数教育の拠点校として役割を果たすことができた。	（本事業は、文科省採択により行うものであり、年度更新のため、事業の継続が不採用ということがありうるため。）																東京大学		
44	教育委員会事務局	教育研究所	研修事業・教職員研修	「社会を生き抜く力と希望をはぐくむさいたま市教育を支える教員研修の実施」を基本方針に、多様な研修を実施し、教員のキャリアステージに応じて求められる資質能力の向上を図る。	平成14年度	埼玉大学をはじめとする大学の教員14名を研修会の講師として招聘した。	大学教授等による最新の理論や指導方法等を提供することで、受講者の指導力の向上に役立てることができた。	継続実施	○																埼玉大学 國學院大學 東京造形大学 聖徳大学 淑徳大学 上越教育大学 東京大学 日本体育大学 東京学芸大学 文教大学 玉川大学 京都産業大学 前橋工科大学 明治大学	

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施にしたことによる効果	今後の方向性	連携先														備考		
									埼玉大学	埼玉県立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義塾大学	芝浦工業大学	聖学院大学	日本大学	人間総合科学大学	放送大学	目白大学	国際学院埼玉短期大学	その他	大学名			
45	教育委員会事務局	教育研究所	研修事業・「教師力」パワーアップ講座	平日の夜間に開催する教員の自主的・自発的な研修会。若手教員や教職を目指す学生をはじめとする教職員などを対象に、「教師力」のさらなる向上、とりわけ授業力の向上を図る。	平成17年度	埼玉大学の教員2名を講座の講師として招聘した。さいたま教育コラボレーション協定を結んでいる大学4校(埼玉大学、聖学院大学、共栄大学、国際学院埼玉短期大学)及び、文教大学に、毎月、講座の予定一覧を送付したり、Webページに掲載したりするなど、教員を目指す学生に講座への参加を促した。(26講座にのべ50名の大学生が参加)	埼玉大学の教員の指導により、受講者の専門性を高めることができた。学生と教員が交流しながら学ぶことで、より具体的な指導方法についての情報交換がなされ、実践的指導力の向上に資することができた。	継続実施																【講師】 埼玉大学  【予定表を送付する大学】 埼玉大学、共栄大学、聖学院大学、国際学院埼玉短期大学、文教大学	
46	教育委員会事務局	教育研究所	研修事業・授業の達人大公開	さいたま市学校教育の一層の充実を図るために、優秀教職員表彰者による公開授業を実施し、優れた指導技術の引き継ぎと、活用を促進する。	平成21年度	埼玉大学をはじめとする大学生のべ58名が参加	教職を目指す学生に講座の実施について広報することで、教員と学生が交流しながら学ぶことができた。	継続実施																埼玉大学 共栄大学 聖学院大学 国際学院埼玉短期大学 文教大学 埼玉県立大学	
47	教育委員会事務局	館岩少年自然の家	自然に学ぶ夏の学校	加藤泰浩研究室が主催し、3日間、南会津の大自然を舞台に自然の素晴らしさを実感し、科学の偉大さや素晴らしさを体験しながら学ぶ。	平成28年度	①保護者説明会・事前学習会 7月1日(土) 桜木公民館 ②自然に学ぶ夏の学校 7月23日(日)～25日(火) 館岩少年自然の家・さいたま市立小学校から募集した6年生39名が参加	大学教授や研究員から専門的な話を聞くことにより、知識を得るだけでなく、参加児童の科学への興味・関心が、より一層深まったり、新たな分野へ興味が広がったりした。	次年度も内容を改善しながら、継続する予定。															○ 東京大学	共催事業	

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績（大学との連携内容）	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先														備考				
									埼玉大 学	埼玉県 立大 学	浦和 大 学	共栄 大 学	慶應 義 塾 大 学	芝浦工 業 大 学	聖学院 大 学	日本 大 学	人間 総 合 科 学 大 学	放送 大 学	目白 大 学	国際学 院 埼 玉 短 期 大 学	その他	大学名					
48	教育委員会事務局	生涯学習振興課	大学公開講座	市内の大学において、一般市民を対象とした公開講座を開催する。	平成13年度	埼玉大学・芝浦工業大学・聖学院大学・目白大学・国際学院大学・浦和短期大学・浦和大学において公開講座を実施	生涯学習における市民の多様化・高度化する学習ニーズに対応するものとなっている。	継続する予定	○			○															
49	教育委員会事務局	生涯学習振興課	チャレンジスクール推進事業	土曜や放課後等に学校の教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの自主的な学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する。	平成19年度	大学へボランティア募集のチラシを配付し、事業の周知及び学生へのボランティア募集を実施した。	児童生徒と年齢に近い、多くの大学生にボランティアとして協力してもらったことで、参加児童生徒から好評で、大変有意義な活動となった。	引き続き、学生に協力を依頼していく。	○	○	○	○									○	○	○			文教大 学	
50	教育委員会事務局	文化財保護課	「田島ヶ原サクラソウ自生地」植生管理指導	国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の植生を適切に管理するため、学識経験者から必要な指導・助言を得る。	平成27年度	田島ヶ原サクラソウ自生地の植生管理状況を把握するための現地調査等を行い、指導・助言を得た。	指導・助言をもとに、今後の適切な植生管理方法を検討することができた。	継続する予定	○																		
51	教育委員会事務局	文化財保護課	ボランティア団体「田島ヶ原サクラソウ自生地を守る会」研修会	国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の普及啓発活動を行っているボランティアの研鑽のため、講師を招き、研修会を開催する。	平成27年度	田島ヶ原サクラソウ自生地の植生をテーマに、研修会を開催した。	研修会で得た知識を自生地の普及啓発活動に活かし、活動の一層の充実を図ることができた。	継続する予定	○																		

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先															備考		
									埼玉大	埼玉県立大	浦和大	共栄大	慶應義塾大	芝浦工業大	聖学院大	日本大	人間総合科学大	放送大	目白大	国際学院埼玉短期大	その他	大学名				
52	教育委員会事務局	青少年宇宙科学館	ロボット大会	仲間で協力しあい、ものづくりの成果を競い合う場面を設定し、創造性豊かな青少年を育成する。	平成22年度	大会のスタッフとして、準備・運営に携わった	大会をスムーズに運営することができ、高い満足度を得ることができた。	継続する予定																		
53	教育委員会事務局	うらわ美術館	創作コーナーボランティア募集	夏の企画展の関連事業として行っている自由工作室「創作コーナー」のボランティアを募集する。	6月	教育学部美術講座内で創作コーナーボランティア募集の説明会とチラシ配布を実施した。	残念ながら今年度は大学からのボランティア参加はなかったが、説明会の開催およびチラシを配布したことで事業の周知につながった。	継続する予定																		
54	教育委員会事務局	生涯学習総合センター	さいたま市民大学（教養Aコース、教養Bコース、教養コース特別講演、さいたま文化コース、地域ボランティアAコース）	市民の方々の高度で専門的かつ多様な学習要求に応えるとともに、自発的な学習活動を促し、豊かな生涯学習社会を築くことを目的として、さいたま市民大学を開校した。	平成28年度	さいたま市民大学各コースについて、講師に大学准教授、教授等を招き講演を行った。	市民の方々の高度で専門的な学習要求に応じることができた。	さいたま市民大学においては、市民の方々の高度で専門的な学習要求に応えるため、今後も継続して大学准教授、教授等の講師を招き講演を行う。																		東洋大学、成城大学、獨協大学
55	教育委員会事務局	鈴谷公民館（与野本町公民館）	介護予防事業「桑の実学級」（後期）	高齢者学級内で「懐かしい歌」を受講者全員で歌う講座を実施した。	平成29年度	埼玉大学の三橋さゆり准教授に講師を依頼した。	地域の高齢者のみなさんに、本格的な歌唱指導を受ける機会を提供できた。	無																		

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携 開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内 容)	大学と連携して事業 を実施したことに よる効果	今後の方向性	連携先																備考
									埼玉大 学	埼玉県 立大学	浦和大 学	共栄大 学	慶應義 塾大学	芝浦工 業大学	聖学院 大学	日本大 学	人間総 合科学 大学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大学	その他	大学名			
56	教育委員会事務局	鈴谷公民館 (与野本町公民館)	介護予防事業 「懐かしい歌をみんな で楽しもう」	高齢者を対象に「懐 かしい歌」を歌う講 座を実施した。	平成29年 度	埼玉大学の三橋さゆ り准教授に講師を依 頼した。	地域の高齢者のみな さんに、本格的な歌 唱指導を受ける機会 を提供できた。	平成30年度も引き 続き実施する予定	○																
57	教育委員会事務局	鈴谷公民館 (下落合公 民館)	夏休み子ども公民館 「ロボット工作教 室」	小学生を対象に、大 学生のマンツーマン 指導により、リモコ ンで動くロボットを 作成する講座を実施 した。	平成23年 度	小学生を対象にした 工作教室を開いてい る、芝浦工業大学の 部活動「ロボット遊 交部からくり」に講 師を依頼した。	大学生のマンツーマ ン指導により、参加 した小学生にわかり やすく電気工作を教 えることができ、 又、大学生と交流す る機会を提供するこ とで、小学生の社会 性を育むことができ た。	平成30年度も引き 続き実施する予定																	
58	教育委員会事務局	鈴谷公民館	一般講座 「合唱入門講座」	発声法や声を出す技 術など合唱の基礎を 学んだ	平成27年 度	埼玉大学の三橋さゆ り准教授に講師を依 頼した。	発声法から高音部・ 低音部に分かれての 本格的な合唱を学ぶ 機会を提供できた。	平成30年度も引き 続き実施する予定	○																
59	教育委員会事務局	田島公民館 (土合公民館)	ふれあいコンサート	地域住民に質の高い 音楽を提供する。 今年度は平成30年1 月27日に実施。	平成22年 度	大学教職員を含めた 実行委員会により企 画、運営。 学生たちには出演者 の一部としてステー ジを任せ、また前日 の会場設営等、様々 な形で協力してもら い、公民館と大学と の連携を図ってい る。	現在の実行委員会に よる開催形式で8回 目の開催となり、来 場者数も150人と多 く、地域に定着した コンサートとなっ た。	今後も実行委員や地 域ボランティアとの 協働事業の一環とし て継続していきたい。	○																



市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施にしたことによる効果	今後の方向性	連携先															備考			
									埼玉大	埼玉県立大	浦和大学	共栄大	慶應義塾大	芝浦工業大	聖学院大	日本大	人間総合科学大	放送大	目白大	国際学院埼玉短期大	その他	大学名					
60	教育委員会事務局	上木崎公民館・針ヶ谷公民館	人権講座 心のスロープ～心をつなぐコミュニケーション～	人権講座。 地域で共に暮らせるまちづくりのため、私たちができることを学び、コミュニケーションを図る。	平成29年度	浦和大学こども学部でスティールパンをはじめ音楽の指導をしている大学教授を招いてスティールパンの演奏を依頼する。	より高度な内容の演奏や話が聞いたことによる、満足度のアップ。	参加者の要望等を考慮して検討する。																			
61	教育委員会事務局	大東公民館	歴史講座	歴史上の人物について考察する。	平成23年度	歴史講座の講師依頼	定員を上回る申込があった。経験を生かした講座内容が好評だった。	参加者の要望等を考慮して検討する。																			
62	教育委員会事務局	仲本公民館	介護予防事業/仲本塾(前期)	健康、歴史、美術並びに消費生活など幅広い分野を学び、その知識を、身に着け生活に役立てるとともに、参加者の交流を図り、仲間づくりを促し、もって介護予防に資する。	平成29年度	第2回の「仏教美術を学ぼう」に駒澤大学准教授を講師として、招いた。	より高度な内容の話が聞いたことによる、満足度のアップ。	平成30年度も実施予定														○	駒澤大				
63	教育委員会事務局	仲本公民館	介護予防事業/仲本塾(中期)	健康、歴史、美術並びに消費生活など幅広い分野を学び、その知識を、身に着け生活に役立てるとともに、参加者の交流を図り、仲間づくりを促し、もって介護予防に資する。	平成28年度	第2回・3回の「万葉集に親しむ」にフェリス女学院大学講師を講師として、招いた。	より高度な内容の話が聞いたことによる、満足度のアップ。	平成30年度も実施予定														○	フェリス学院大				

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先													備考				
									埼玉大	埼玉大	浦和大	共栄大	慶應大	芝浦工	聖学院	日本大	人間科	放送大	目白大	国際学	その他		大学名			
64	教育委員会事務局	仲本公民館	文学講座	日本の代表的紀行文学である松尾芭蕉の「おくのほそ道」を題材として、作品を鑑賞し、その背景にある時代の文化・歴史・社会党を学び、教養を高める。	平成28年度	全3回行い、跡見女子学園教授を招いた。	より高度な内容の話が聞けたことによる、満足度のアップ。	なし																	○	跡見学園女子大学
65	教育委員会事務局	本太公民館	介護予防事業/コスモス学院・本太(前期)	教養、体験、実習等の単発講座の組み合わせによる学習を行う。	平成29年度	事業の第8回目にコスモス学院・本太寄席を実施。埼玉大学落語研究会を講師に招く。	高齢者が青少年とのコミュニケーションをとることができる。青少年が公民館を知るきっかけづくりになる。	平成30年度も継続予定																○		
66	教育委員会事務局	仲町公民館	介護予防事業/ひまわり学級(2学期)	地域の65歳以上の方に年間を通して健康づくりと学習の場を提供する。	平成21年度	駒澤大学の准教授に仏教美術の講師を依頼。	専門的な話を受講者が聞き感銘を受けていた。	平成30年度も継続予定																	○	駒澤大学
67	教育委員会事務局	仲町公民館	介護予防事業/ひまわり学級(3学期)	地域の65歳以上の方に年間を通して健康づくりと学習の場を提供する。	平成21年度	東邦音楽大学の講師にクラシック音楽の講師を依頼。	専門的な話を受講者が聞き感銘を受けていた。	平成30年度も継続予定																	○	東邦音楽大学

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先													備考				
									埼玉大 学	埼玉県 立大 学	浦和 大 学	共栄 大 学	慶應 義 塾 大 学	芝浦工 業大 学	聖学院 大 学	日本 大 学	人間 総 合 科 学 大 学	放送 大 学	目白 大 学	国際学 院 埼 玉 短 期 大 学	その他		大学名			
68	教育委員会事務局	文蔵公民館(西浦和公民館)	文学講座「三国志入門」	「三国志」の世界観や登場人物について学び、より豊かに現代社会を生きていくための事業として実施した。	平成29年度	早稲田大学教授を講師として招へいした。	著書も豊富で、テレビ番組の解説も務める著名な方に来ていただいたため、この方が講師だからという理由で講座に参加された方もいた。また、講座後のアンケートでは、「専門家の話に引き込まれた」など、大変好評で、受講生の満足度が高かった。	未定																	調査票2では、平成30年度以降も実施予定ありとされていますが、まだ内諾の段階です。調査票1をホームページで公開する際は、こちらに記載したとおり「今後の方向性は未定」としてください。	
69	教育委員会事務局	資料サービス課	インターンシップ	大学において図書館司書課程を履修中の学生に対し、図書館業務の実習を行う。	平成20年度	筑波大学(8月21日~9月1日)	図書館の運営や公共サービスについての理解を深めてもらった。	継続して受入																		
70	教育委員会事務局	資料サービス課	資料の相互利用	「埼玉大学図書館及び埼玉県立大学情報センターと埼玉県内市町村立図書館等との資料相互貸借に関する協定」に基づき、埼玉大学及び埼玉県立大学情報センターと埼玉県内市町村立図書館等との間で、それぞれが所蔵する資料の貸借につき相互に協力することにより、各施設利用者の研究、教育及び学習に資することを目的とする。	平成21年度	平成29年度も、埼玉大学・県立大学からの借用、また貸出を行っている。	図書館の所蔵資料は館種によって異なるため、市図書館の利用者には大学の高度で専門的な資料を提供できるとともに、大学図書館利用者にも幅広い資料の提供が可能になる。	市民の研究や学習に資するため、さらに連携を深めていく。		○	○															

市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携 開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内 容)	大学と連携して事業 を実施したことに よる効果	今後の方向性	連携先													備考				
									埼玉大 学	埼玉県 立大学	浦和 大 学	共栄大 学	鹿島 大学	芝浦工 業大学	聖学院 大学	日本大 学	人間総 合科学 大学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大学	その他		大学名			
71	教育委員会 事務局	北浦和図書 館	ゲストスピーカー	学校図書館と公共図 書館の連携につい て、講義を行う。	平成27年 度	平成29年7月5日3次 限「図書館情報学概 論」で講義を行っ た。	「地域における知の 拠点」である公共図 書館と大学が連携 し、現場での取組を 紹介することで、さ いたま市図書館の情 報発信とPRの機会 となった。また、人 材育成の観点から、 図書館情報学過程を 学ぶ学生に、種類の 異なる図書館の各々 の役割等について理 解を深めてもらっ た。	担当講師より、図書 館についての他の内 容での講義依頼もさ れたが、来年度のシ ラバスや受講学生数 の決定を待ってから 調整することにな る。																		
72	教育委員会 事務局	桜図書館	埼玉大学生による 「食育おはなし会」	絵本の読み聞かせや 紹介を交えながら、 埼玉大学生が食べも のや食べることに ついて解説する。	平成27年 度	7月29日、10月21 日に「牛乳」をテー マに実施した。	大学の専門性を生か したおはなし会が実 施できた。	継続の方針																		
73	見沼区役所	コミュニ ティ課	第15回見沼区ふれ あいフェア	区民意識の醸成と地 域住民の連帯を図る ため、見沼区ふれあ いフェアを開催す る。	H29.6～ H29.11	第15回見沼区ふれ あいフェアへの参加 を呼びかけ、ステー ジ部門に出演いただ いた。	学生に発表の場を提 供し、地域との交流 やふれあいの機会と なった。また、来場 者も地元大学に親し みを持たせた。	来年度も呼びかける 予定。																		主催：見沼区 ふれあいフェア 実行委員会
74	桜区役所	くらし 応援 室	春夏秋冬の交通安全 運動に伴うキャン ペーン	春夏秋冬にある交通 安全運動に伴い、交 通安全啓発品を、埼 玉大学の学生に配布 した。	平成27 年度	埼玉大学構内におい て交通安全啓発品を 配布した。	多くの学生に対する 交通安全啓発による 事故防止	今後も引き続き行っ ていく。																		

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携 開始時期	平成29年度実績 (大学との連携内 容)	大学と連携して事業 を実施したことに よる効果	今後の方向性	連携先														備考						
									埼玉大 学	埼玉県 立大学	浦和大学	共栄大学	慶應義 塾大学	芝浦工 業大学	聖学院 大学	日本大 学	人間総 合科学 大学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大学	その他	大学名							
75	桜区役所	コミュニ ティ課	第15回桜区区民ふ れあいまつり	多種多様なイベント の実施により、地域 コミュニティの醸 成・活性化と地域のこ まづくりを図ること を目的として、区 民を主体としたまつ りを開催する。	平成15年 度	埼玉大学学生による 模擬店（2団体）や イルミネーション工 作教室、自転車修理 体験、が行われた。 また、さくらホール ステージでは同学吹 奏楽部の演奏が行わ れた。	学生と区民が触れ合 える場を提供するこ とで、埼玉大学と区 民との交流を深め、 地域コミュニティの 醸成を図ることがで きた。	様々な催しを通して 引き続き同大学と協 働し、区民との交流 を促進することで、 魅力ある桜区のまち づくりに向けて取り 組みを推進。																					○
76	桜区役所	コミュニ ティ課	桜区区民ふれあいコ ンサート	音楽を通して、明る く豊かなコミュニ ティの醸成を図るこ とを目的として、さ いたま市にゆかりの あるアーティスト等 を招き、プラザウエ スト1階アトリウム にてコンサートを開 催する。	平成18年 度	平成29年8月に開催 したロビーコンサ ートにおいて、埼玉大 学 邦楽部の学生が 出演し、演奏した。	ステージと客席の距 離が近いロビーコン サートで演奏やMC を行うことにより、 同学と区民の交流が 深まり、明るく豊か なコミュニティの醸 成や、大学との連携 を図ることができ た。	同大学に関わる演奏 者の新たな育成・発 表の場の提供を行う など、引き続き連携 を図っていく。																					○
77	桜区役所	コミュニ ティ課	桜区市民活動ネット ワーク登録団体への 支援	桜区に拠点を置き活 動する市民団体を登 録し、ゆるやかなつ ながり（ネットワー ク）を構築するとと もに、団体の事業周 知、区役所内一部施 設の貸出や補助金の 交付等の支援を行 う。	平成23年 度	地域とも連携し活動 している、埼玉大学 イルミネーション プロジェクト実行委 員会とむつめ祭常任 委員会の2団体が、 桜区市民活動ネット ワークへ登録してお り、区報等へのイベ ント記事掲載などを 行った。また、交流 会等を通して他登録 団体等との交流が図 られた。	市民活動ネットワ ーク登録団体間の交 流や区民協議委員と の交流会等を通して、 区役所との交流や連 携が深められた。 また、これらを機に 地域のお祭りや他の 登録団体主催事業へ の参加など交流が広 がり、地域活性化を 図ることができた。	引き続き桜区市民活 動ネットワークを通 して、連携並びに支 援を継続していく。																					○
78	桜区役所	コミュニ ティ課	桜区知識満開講座	桜区の知的財産であ る埼玉大学と区民と の交流を深めるた め、埼玉大学から講 師を招き、講演会を 実施する。	平成22年 度	埼玉大学教育学部教 授による「舞踊の原 点はコミュニケー ション～想いを身体 で表現し、個性や違 いを認め合う～」を テーマに、同学ダン ス部の実技を交えて の講座を開催した。	講義テーマについて の区民の知識や見聞 を広げることによ り、埼玉大学と区民 との交流をより一層 深めることができ た。	桜区の知的財産であ る埼玉大学と区民と の交流を深めるた め、他の各種事業を とおして同大学との 協働を促進していく こととし、本事業は 終了とする。																					○

市と大学との連携事業（平成29年度）

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績（大学との連携内容）	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先												備考				
									埼玉大 学	埼玉大 学	浦和大 学	共栄大 学	慶應義 塾大 学	芝浦工 業大 学	聖学院 大 学	日本大 学	人間総 合科学 大 学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大 学		その他	大学名		
79	桜区役所	コミュニ ティ課	区民会議	桜区の魅力あるまちづくりを推進するため、区政に関する多様な意見を聴き、区が主体的に取り組むべき地域の諸課題等について話し合う。	平成15年 度	桜区区民会議に委員として参画があり、地域との交流の事例を紹介を含め率直な意見がありました。	率直で柔軟な視点から意見や、地域コミュニティの場への参加により、区民との交流が促進されたことは大きな貢献である。	同大学へ委員推薦を依頼するなど、引き続き連携を図っていく。																	
80	緑区役所	コミュニ ティ課	緑区区民まつり	区民が一体となってまちづくりを行い、ふれあいのある地域社会の育成を図るため、官民協働により区民まつりを開催する。	平成15年 度	浦和大学には会場内の広場において子ども遊び指導を実施していただいた。	学生と区民との交流が促進された。	継続																	
81	岩槻区	コミュニ ティ課	岩槻やまぶきまつり	区と区民が協働で出店(展)や出演を行うイベント	平成17年 度	子どもふれあいコーナーの出店をした。	親子連れの来場者に喜んでもらうとともに、イベントの盛り上げに効果があった。また、学生にとっても学習意欲の向上につながったものと期待できる。	継続して実施したい。																	
82	岩槻区	コミュニ ティ課	いわつきマルシェin 目白大学	岩槻の「食」をテーマにした出店や、近隣小中学生の出演を行うイベント	平成27年 度	今年度は悪天候により中止になったものの、準備段階から目白大学の職員に実行委員会の委員として参加いただいた。また、同日開催した目白大学の学園祭のパフレットにも当事業の告知をしていた。	当事業が開催できなかった場合、同日開催により相互の来場者増を図ることができ、地下鉄7号線中間駅周辺の賑わい創出に寄与することが期待できる。また、学生の地域参加の機会にすることが期待できる。	駐車場の確保・誘導等の課題はあるが、継続して実施したい。																	

## 市と大学との連携事業(平成29年度)

No	局区等	課等	事業名	事業内容	大学連携開始時期	平成29年度実績(大学との連携内容)	大学と連携して事業を実施したことによる効果	今後の方向性	連携先														備考		
									埼玉大 学	埼玉県 立大 学	浦和 大 学	共栄大 学	慶應義 塾大 学	芝浦工 業大 学	聖学院 大 学	日本大 学	人間総 合科学 大 学	放送大 学	目白大 学	国際学院 埼玉短期 大 学	その他	大学名			
83	岩槻区	コミュニ ティ課	城下町岩槻健康 ウォーキング～歴史 散策クイズ～	区内のウォーキング コースにチェックポ イントを設け、クイ ズを解きながら歩く ウォーキングイベン ト	平成27年 度	ウォーキングの参加 者にストレッチ等の 指導をしていただく 予定である。	参加者へストレッチ 等の専門的な知識を 披露するほか、イベ ントの盛り上げへの 効果、また、学生の 地域参加や地域を知 る機会が増えること を期待する。	継続して実施した い。																○	
84	岩槻区	支援課	子どもがつくるまち 「ミニ岩槻」	子どもが主役の仮想 の夢のまちをつくり、 その中でやりたい 仕事をしてお給料 をもらって、お店で 自由に遊んで遊ぶな ど、楽しく社会参画 体験ができるイベン ト	平成28年 10月	開催当日、大人ス タッフとしてポラン ティアで参加しても らい、子どもスタッ フやまちの運営をお 手伝いしてもらおう。	学生が、区役所や参 加した子どもたち、 また他の大人スタッ フとふれあいながら 学ぶ場となり、同時 に地域コミュニティ の醸成も図ることが できた。	引き続き協力を依頼 する。																○	
85	岩槻区	高齢介護課	岩槻区高齢者生活支 援コーディネーター 連絡会	高齢者の生活支援・ 介護予防サービスの 体制整備の推進及び その提供体制の構築 に向けての諸課題等 について話し合う。	平成29年4 月	連絡会への大学教員 参加。	専門的な視点（作業 療法学科）からの助 言と、大学教員が研 究している自立高齢 者への介護予防・健 康増進プログラムを 区民に実施。	継続																○	